

令和7年度 学校経営計画書

1 教育目標

- 心身一如の発達につとめて
- 真理を求め、勉学を第一義とすること
- 情操を豊かにし、自らの品位を高め、他者的人格を重んずること
- 正義を愛し、誠実にして、社会から信頼されること

石川県立金沢泉丘高等学校（全日制課程）

校長 岡橋勇侍

2 中・長期的目標

本校教職員からなる「チーム泉丘」は、変化の激しい社会における答えのない様々な課題に協働して立ち向かう実行力、本当にこれでよいのかと様々な角度から探究心を持って思考し、自分の考え・想いを語る力を積み重ね、ひいては一人ひとりの夢、目標に向かい自走する力を、生徒に育成する。この実行により、社会に貢献するリーダー、他者を思いやることでできる人材を輩出する学校、全国一の魅力ある公立高校になる。

(1) 学校の現状

- ① 本校は、創設以来「心身一如」を校是とし、調和のとれた人材育成に取り組んでいる。「確かな学力」を身につけさせるとともに、次世代を担う心身共に健全で品位と良識あふれるリーダーの育成をめざし、保護者や県民から信頼される学校づくりを進めている。
- ② 大学進学に関して、県内有数の進学校としての実績を収めている。世界を視野に高い志を掲げ、そのための質の高い学びを提供し、キャリア形成を見据えた第一志望の実現をめざしている。
- ③ 平成15年度から令和2年度まで、4期18年間SSH（スーパーインセンスハイスクール）研究開発の指定を受け、国際的に活躍できる科学技術系人材の育成に努めてきた。令和4年度より5年間のSSH認定枠に指定され、活動プログラムの更なる発展及びその成果の普及を展開している。
- ④ 平成27年度からの5年間のSGH（スーパーグローバルハイスクール）の指定が終了し、その上でさらなるグローバルな社会課題に関し、多面的に考え、多角的に行動する力を備えた、国際舞台で活躍する人材育成のための本校独自の探究活動プログラムを追究し、本校普通コースにもその指導のノウハウは波及している。現在、文理融合という原点に回帰するとともに、新しい金沢泉丘SGHプログラムの開発に取り組んでいる。
- ⑤ 平成24年度に「いしかわニュースーパーハイスクール」の指定を受け、人文科学、自然科学の両分野における幅広い教養を身につけ総合力を備えた、国際性に優れた次世代を担うリーダーの育成をめざしている。加えて、本県ニュースーパーハイスクールの牽引役の使命を担っている。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 「確かな学力」の育成
確かな知識に基づいた主体的・対話的で深い学びにつながる質の高い教科指導を、GIGAスクール構想を踏まえた個別最適かつ協働的な学習方法を取り入れ組織的に展開する。この実践により、生徒一人ひとりの進路実現に繋げていく。
- ② 豊かな心の育成
「心身一如」の具現化に向け、部活動・学校行事・社会奉仕活動等の教育環境・設備を整え、次世代を担うリーダーに必要な人格及び他者をおもんぱかる精神の陶冶をめざす。また、防災をはじめとする安心・安全について考察・行動する力を育成していく。

(3) 教職員・学校組織等の望ましい在り方

- ① 指導力の向上と組織の活性化
県民目線で教育公務員としての規範意識をしっかりと、法令を遵守する。危機管理意識を高めるとともに、効果的な教育活動を展開するため、研究授業や研修会を通して教職員の指導力の向上を図る。また、組織運営の合理化・効率化の推進により、教職員がワーク・ライフ・バランスを維持し、活力と創造力を十分に発揮できる職場環境を形成する。
- ② 開かれた学校づくり
本校の方針や特色ある取組を、積極的に県民に発信し、広く協力・支援が得られる学校とする。また、PTAや地域社会とも連携することによって、本校の教育活動が有機的に展開することをめざす。

3 今年度の重点目標

創立131年の歴史と伝統を踏まえ、建学精神に基づいた教育活動の実践に努める。

- (1) 「勉学を第一義とすること」を踏まえ、質の高い学力を育成する。
 - ・知的好奇心旺盛な生徒に、本質に触れる質の高い授業を提供する。また、生徒1人1台端末を効果的に活用しGIGAスクール構想を展開するなどして、生徒の主体性を高め、学びに対して自走する力を育成することで、過年度生も含めた生徒の高い進路志望の実現を図る。
- (2) 探究活動プログラムの進化・発展及び成果の普及に努める。
 - ・これまで積み上げてきたSSH・SGHプログラムを進化・発展させ、2つのプログラムを融合させた新しい探究活動プログラムを全校生徒に対して実践する。加えて、その指導法を本県高等学校に波及させるとともに、あまねく県民の方に発信する。
- (3) 「品位を高め、他者の人格を重んずること」を踏まえ、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。
 - ・部活動・生徒会活動・学校行事等を通して、自分の考えを発信するとともに他者の考えも尊重し、集団の共通目標に向かって協働して粘り強く行動する力を育成する。また、挨拶の励行や校内美化、様々なマナーを遵守することで周囲から応援される人づくりを推進する。
- (4) 「正義を愛し、社会から信頼されること」を踏まえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。
 - ・授業公開など学校公開の機会の拡大を図る。とりわけ、探究活動を通して、防災をはじめとする自然科学的課題や社会課題などの解決に向け思考し、定量的・定性的根拠をもつて提案する力を育成する。
- (5) 組織運営・教職員の働き方の改善により、教育活動の効果を一層高める。
 - ・効率的で密度の濃い学習活動、部活動・生徒会活動の推進に努める。